＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン　vol.6　◇◆
2009年2月25日号

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

　このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

　次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

　メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

―――◇◆ INDEX ◆◇――――――――――――――――――――――――――――――

１．犯罪からの子どもの安全レポート
　　ー児童見守りシステムについて

２．「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

――――――――――――――――――――――――――――――――――◆◇◆◇―――

１．犯罪からの子どもの安全レポート

皆さんこんにちは！

　立春も過ぎて、ある地域では早咲きの桜が咲いたというニュースもあり、少しずつ春の気配が感じられるようになってきました。しかし、まだまだ風が冷たい日もあり、この時期になると毎年「早春賦」の一節を思い出します。

　そんな寒暖の差が激しい気候の中、「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域では今月も領域活動が目白押しです。まずはサイトビジット報告から。

　防犯教育用のe-learningシステムの開発を目指す藤田プロジェクトでは、1月30日に各グループのリーダーが集い、リーダー会議が行われました。東から、東京・静岡・大阪・神戸と、実施者の拠点が離れているこのチーム。face to faceの会議やオンライン上でのコミュニケーションによって、多分野の人々が効果的に協働し、より良いプログラム・システムの開発が期待されます。

　また、2月16、17日には、子どもへの面接法と研修プログラムの開発を目指している仲プロジェクトが開催した、司法面接研修に参加してきました。

今回は、1月に実施した研修の後半で、各自が実施した面接を客観的に分析するという実習もあり、あっという間の2日間でした。最後には、参加者全員に修了証が手渡され、私もいただいてしまいました。

単に対策を実施するだけでなく、評価・改善していくという考え方を大切にしているこの領域。研修の前後で、一人ひとりにどんな変化がみられるのでしょうか？研修内容自体もきっとこれから進化していくはずで、とても楽しみです。

2月18日には、原田プロジェクトの行動科学グループのミーティングが開催されました。このグループでは、子どもの日常生活や地域住民の防犯活動に関わる心理的要因、地域にある資源と防犯活動との関係などを明らかにし、提言を行うことを目指しています。

グループのミーティングといっても、プロジェクト内の他のグループのメンバーも参加しており、自分たちの活動について他のグループへ積極的に意見を乞うなど、グループという枠を越えた活発な意見交換がなされ、大変有意義な会議でした。

その他にも、プロジェクト全体会議を開催しているところや、他のプロジェクト実施者を訪れてディスカッションするなど、さまざま。

また、前回からお知らせしているように、3月10日には、今年度を締めくくるイベント、「第２回『犯罪からの子どもの安全』シンポジウム 被害実態をつかむ ― 子どもたちの叫びが聞こえますか ―」を領域主催で開催します。

子どもたちの犯罪被害の実態把握に焦点を置いた今回のシンポジウム。警察、医療、司法、情報空間など異なる現場のプロジェクト実施者による講演は必聴です。途中入退場、ポスターセッションのみの参加も可能です。ぜひご参加ください。

シンポジウムのお申し込み、詳細はこちら
→　http://www.ilcc.com/kodomo_sympo/index.html

今号では、先日総務省が手引書を公開した「児童見守りシステム」についてのレポートを掲載しています。どうぞご覧ください。

◇◆◇――――――――――――――――――――――――――――――――――――◆◇◆

●児童見守りシステム導入の手引書について

犯罪からの子どもの安全WEBサイトの「国の取り組み」で、１月２６日更新情報の中でもご紹介したように、総務省から「児童見守りシステム導入の手引書」が公表されました。これは、平成１８年度補正予算に係る「地域児童見守りシステムモデル事業」（平成１９年度に実施）の結果を踏まえて作成されたものです。

内容は、「児童見守りシステム」の定義から始って、機能としくみ、構築パターンと導入例、各関係者に求められる役割、導入の手順と課題と順を追って説明する構成となっており、省庁発行のものであっても、堅苦しい感じは一切なく、とてもわかりやすく表記されています。

児童見守りシステムに関する緊急アンケート結果として、興味深い

数値が挙げられていました。アンケートを行った１２２の自治体のうち、
全ての自治体が何かしらの児童の安全確保対策に取り組んでいると
いうのです。そのうちの約６割が児童見守りシステムは「必要」と
回答したとのこと。子どもの安全に対する関心の高さがうかがえます。

　見守りシステムにはいくつかの機能があるとのこと。
（１）連絡・情報提供　（２）登下校確認（３）通過確認
（４）状態把握　（５）危険通知
これらを地域ごとの特性や実情に合わせて、必要な機能を組み合わせ、
システムを構築するのです。システムの構成要素も、電子タグ、GPS
機能付き通信端末（携帯電話も含む）、緊急通報機能付き防犯ブザー
などさまざまで、これなら、学校での携帯電話所持が難しくなっても
対応できます。

　領域関係者から寄せられた情報では、これまで児童が危険を察知した
ことを伝える『危険通報』と『情報共有』は、同じカテゴリーとして
捉えられていたのが、その前提を覆し、まず情報共有をベースに
さまざまな見守りのシステムが補足されるべき、という整理を明確に
したことが、この手引書の特徴の１つに挙げられるとのこと。

　児童を見守るためのシステムと聞いて、個人的な感想ですが、当初は
あまりいい印象は受けませんでした。機械で子どもたちを見守らなければ
ならない世の中になってしまったという憂いと、そのシステマティックな
響きがどうも引っかかったからです。

　しかし、手引書を読み進めていくうちに、このシステムは子どもたちの
安全・安心確保において、人的見守り支援のための一ツールであること、
見守られる側だけではなく、見守る側にもメリットがあるということが
わかってきました。

　具体的には、高齢化の進んだ地域における見守り活動の負担軽減、
従来の電話連絡網の欠点（不在家庭へ連絡がつかない等）の解消などです。

　手引書には、児童見守りシステム導入にあたって十分な事前ニーズ調査の
必要性や、運用で一番負担のかかる学校の労力の軽減、安定した運用が
可能なシステムの導入と体制構築の重要性、不審者情報のフォローアップ
などの課題も提示されていました。

　今回の手引書には、児童見守りシステムの導入に直接関わっていても
いなくても、参考になりそうな情報が多々ちりばめられており、正に
「手引書」といった感じで初心者でも抵抗なく、興味深く読みことが
できました。

詳しくは、こちらをご覧ください。
　→　http://www.soumu.go.jp/s-news/2009/090109_2.html

（領域担当　S.F.）

２．「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取り組み

「情報セキュリティの日」関連行事一覧の公表について（内閣官房）
http://www.nisc.go.jp/active/kihon/pdf/sd09event_090130.pdf

少年からのシグナル（平成20年版）（警察庁）
http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen40/SIGNAL_YOUNG.pdf

定住外国人の子どもに対する緊急支援
～定住外国人子ども緊急支援プラン～（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/01/1234694.htm

その他の取り組みについてはこちら
→ http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/

●イベント情報

平成21年3月1日　内閣府セミナー
「地域における子どもの安全活動を広げるために」
http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/20090301.pdf

平成21年3月3日～6日　第17回 セキュリティ・安全管理総合展
「SECURITY SHOW 2009」
http://www.shopbiz.jp/ss/

平成21年3月7日　NPO法人すみだ学習ガーデン　第15回トレンドセミナー
さあ、はじめよう！「オヤコノマーチ」
http://www.sumida-gg.or.jp/trend/T19.htm

平成21年3月7日　すくすくコホート公開シンポジウム「子どもたちの明日に
向けて～すこやかに育つ環境を、科学的に解明します～」
http://www.the-convention.co.jp/jcs-ristex/

平成21年3月10日　第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
被害実態をつかむ ― 子どもたちの叫びが聞こえますか ―
http://www.ilcc.com/kodomo_sympo/index.html

平成21年3月18日　日本自治体危機管理学会第7回定例研究会
『危機管理と地域住民の信頼感』
http://www.jemaweb.org/index.html

平成21年3月26日　日本都市計画学会　第114回　まちづくり懇話会
「都市計画制度の抜本的見直しに向けて」
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cpij/com/proj/g114.html

その他のイベントについてはこちら
→ http://www.anzen-kodomo.jp/event/

◇◆◇――――――――――――――――――――――――――――――――――――◆◇◆

【今月の見どころ】

今月の見どころはトピックスから、近日公開予定の「プロジェクト実施者インタビュー第5回」です。

今回インタビューしたのは、平成19年度採択「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築　ハート・ルネサンス」の皆さんです。

このプロジェクトは、地域の安全・安心のためにさまざまな活動を地域住民の皆さんと一丸となって続けてきたNPO法人が主体となって進めています。携帯電話による見守りシステムなどの最新機器を取り入れながらも、人と人とのつながりを大切にしながら活動を進める様子を取材しました。お楽しみに！

トピックス
→　http://www.anzen-kodomo.jp/column/

※「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキングは、
都合によりお休みいたします。

****

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
http://www.jst.go.jp/melmaga.html
▼ご意見・ご感想、お問い合せはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日　2009年2月25日
■発行元
（独）科学技術振興機構　社会技術研究開発センター
「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域
領域WEBサイト　http://www.anzen-kodomo.jp/
社会技術研究開発センターWEBサイト　http://www.ristex.jp/

****